

調査対象物質名	分析法フローチャート	備考
[2]HCB	【水質】 水質試料 10L → 固相抽出 → 溶出 ガラス繊維ろ紙GC50 抽出ディスクC1 FF クリーンアップ・スペイク添加（注） メタノール10mL、アセトン10mL及びトルエン10mL ×3回 ろ紙はさらにアセトン50mL×2回 超音波抽出20分間 濃縮 → 振とう抽出 → 脱水 → 濃縮 ロータリーエバボレータ 1mLまで 精製水100mL ヘキサン50mL 20分間 無水硫酸ナトリウム ロータリーエバボレータ 1mLまで カラムクリーンアップ → 濃縮 → 濃縮 フロリジル10g 溶出：トルエン200mL ロータリーエバボレータ 1mLまで ヘキサン飽和アセニトリル 50mL×2回 5分間 濃縮 → 転溶・濃縮 → GC/HRMS ロータリーエバボレータ 1mLまで トルエン50mL ロータリーエバボレータ 1mLまで シリンジ・スペイク添加 PCB#70、#111、#138及び #178の ¹³ C ₁₂ -体各200pg	分析原理：GC/HRMS
[6]DDT類 [6-1] p,p'-DDT [6-2] p,p'-DDE [6-3] p,p'-DDD [6-4] o,p'-DDT [6-5] o,p'-DDE [6-6] o,p'-DDD		検出下限値： 【水質】 (pg/L) [2] 1 [6] 2.2 [6-1] 0.5 [6-2] 0.4 [6-3] 0.2 [6-4] 0.5 [6-5] 0.3 [6-6] 0.3 [7] 3 [7-1] 0.6 [7-2] 1 [7-3] 0.7 [7-4] 0.3 [7-5] 0.6 [8-1] 0.8 [10] 0.2 [11-1] 2 [11-2] 0.4 [11-3] 1 [11-4] 0.9
[7]クロルデン類 [7-1]cis-クロルデン [7-2]trans-クロルデン [7-3]オキシクロルデン [7-4]cis-ノナクロル [7-5]trans-ノナクロル		
[8]ヘプタクロル類 [8-1]ヘプタクロル		
[10]マイレックス		
[11]HCH類 [11-1]α-HCH [11-2]β-HCH [11-3]γ-HCH [11-4]δ-HCH	【底質】 底質試料 湿泥(乾泥換算約20g) → 超音波抽出 → ソックスレー抽出 クリーンアップ・スペイク添加（注） アセトン30mL、20分間 2回繰返す アセトン/トルエン(10:90)450mL 18時間以上 濃縮 → 脱水 → 濃縮・転溶 → 酸化処理 ロータリーエバボレータ 20mLまで 無水硫酸ナトリウム ロータリーエバボレータ 1mLまで 垂硫酸テトラ・チルアンモニウム ヘキサン10mL 水溶液10mL 2-ブロハノール20mL 脱水 → 濃縮 → 硫酸処理 → 洗浄 無水硫酸ナトリウム ロータリーエバボレータ 20mLまで 硫酸20mL 着色が薄くなるまで 精製水50mL ほぼ中性になるまで カラムクリーンアップ → 濃縮 → GC/HRMS 50%硫酸シリカゲル3g 溶出：ヘキサン200mL ロータリーエバボレータ 窒素バージン 50μLまで シリンジ・スペイク添加 PCB#70、#111、#138及び #178の ¹³ C ₁₂ -体各1ng	【底質】 (pg/g-dry) [2] 0.8 [6] 2.9 [6-1] 0.5 [6-2] 0.7 [6-3] 0.4 [6-4] 0.6 [6-5] 0.6 [6-6] 0.1 [7] 4 [7-1] 0.9 [7-2] 0.8 [7-3] 1 [7-4] 0.2 [7-5] 0.8 [8-1] 1 [10] 0.3 [11-1] 0.6 [11-2] 0.3 [11-3] 0.4 [11-4] 1
		分析条件： 機器 GC : HP6890GC MS : AutoSpec Ultima 分解能 : 10,000 カラム RH-12ms 30m×0.25mm、0.25μm
	(注1) HCB- ¹³ C ₆ , p,p'-DDT- ¹³ C ₁₂ , p,p'-DDE- ¹³ C ₁₂ , p,p'-DDD- ¹³ C ₁₂ , o,p'-DDT- ¹³ C ₁₂ , o,p'-DDE- ¹³ C ₁₂ , o,p'-DDD- ¹³ C ₁₂ , trans-クロルテノ- ¹³ C ₁₀ , オキシクロルテノ- ¹³ C ₁₀ , cis-ノナクロル- ¹³ C ₁₀ , trans-ノナクロル- ¹³ C ₁₀ , ヘプタクロル- ¹³ C ₁₀ , マイレックス- ¹³ C ₁₀ , α-HCH- ¹³ C ₆ , β-HCH- ¹³ C ₆ , γ-HCH- ¹³ C ₆ 及びδ-HCH- ¹³ Cを、水質は各1ng、底質は各5ng	分析機関報告

調査対象物質名	分析法フローチャート	備考
[2]HCB	【生物】 生物試料 湿重量10g → 脱水 ホモジナイ 無水硫酸ナトリウム → ソックス レー抽出 ジクロロメタン300mL 6時間 → 脱水 無水硫酸ナトリウム クリーンアップ スパッタ添加 (注)	分析原理 : GC/HRMS
[3]アルドリン		検出下限値 : 【生物】 (pg/g-wet) [2] 3 [3] 2 [4] 3 [5] 3 [6] 8
[4]デイルドリン		[6-1] 2 [6-2] 1 [6-3] 1 [6-4] 1 [6-5] 1 [6-6] 2
[5]エンドリン		[7] 10 [7-1] 2
[6]DDT類 [6-1] <i>p,p'</i> -DDT [6-2] <i>p,p'</i> -DDE [6-3] <i>p,p'</i> -DDD [6-4] <i>o,p'</i> -DDT [6-5] <i>o,p'</i> -DDE [6-6] <i>o,p'</i> -DDD	濃縮 ロータリーエバボレータ 20mLまで → 分取 4mL → カラムクリーンアップ フロリジル 8g 妨害物質除去 : ジクロロメタン/ヘキサン(20:80) 80mL 溶出 第1画分 : ジクロロメタン/ヘキサン(20:80) 100mL 第2画分 : ジクロロメタン 100mL	[7-2] 3 [7-3] 2 [7-4] 1 [7-5] 2 [8] 8 [8-1] 2 [8-2] 2 [8-3] 4 [9-1] 3 [9-2] 4 [9-3] 30 [10] 1 [11-1] 2 [11-2] 2 [11-3] 3 [11-4] 2
[7]クロルデン類 [7-1] <i>cis</i> -クロルデン [7-2] <i>trans</i> -クロルデン [7-3]オキシクロルデン [7-4] <i>cis</i> -ノナクロル [7-5] <i>trans</i> -ノナクロル	第1画分 HCB、アルドリン、DDT類、クロルデン類、 <i>ヘ</i> ⁹ タクロル、 <i>trans</i> - <i>ヘ</i> ⁹ タクロルエボキシド、トキサフェン類、マイレックス、HCH類 → 脂質含量の多い試料についてのみ下記※の工程を実施。 シリングスパッタ添加 PCB#15及び#70の ¹³ C ₁₂ -体各0.5ng → 濃縮 ロータリーエバボレータ 窒素バーナー 50μLまで → GC/HRMS トキサフェン類にはGC/HRMS-NCIを用いる。	[9] 10 [9-1] 2 [9-2] 2 [9-3] 30 [10] 1 [11-1] 2 [11-2] 2 [11-3] 3 [11-4] 2
[8]ヘプタクロル類 [8-1]ヘプタクロル [8-2] <i>cis</i> -ヘプタクロルエボキシド [8-3] <i>trans</i> -ヘプタクロルエボキシド	第2画分 ティルドリン、エンドリン、 <i>cis</i> - <i>ヘ</i> ⁹ タクロルエボキシド → 脂質含量の多い試料についてのみ下記※の工程を実施。 シリングスパッタ添加 PCB#15の ¹³ C ₁₂ -体 500pg → 濃縮 ロータリーエバボレータ 窒素バーナー 50μLまで → GC/HRMS	分析条件 : [9] 機器 GC : HP6890GC MS : MAT 95 XL 分解能 : 10,000 カラム HT8-PCB 60m×0.25mm
[9]トキサフェン類 [9-1]Parlar-26 [9-2]Parlar-50 [9-3]Parlar-62		[9]以外 機器 GC : HP6890GC MS : AutoSpec Ultima 分解能 : 10,000 カラム DB-17HT 30m×0.32mm、0.15μm 又は DB-5MS 30m×0.25mm、0.25μm
[10]マイレックス		
[11]HCH類 [11-1] α -HCH [11-2] β -HCH [11-3] γ -HCH [11-4] δ -HCH	シリングスパッタ添加 PCB#15の ¹³ C ₁₂ -体 500pg → 濃縮 窒素バーナー 50μLまで → GC/HRMS	
	※ DMSO/ヘキサン分配 2.5mL×4回 → DMSO層 精製水10mL → 逆分配 ヘキサン2mL×3回 → 洗浄 精製水1mL×2回 飽和塩化ナトリウム水溶液1mL	
	脱水 無水硫酸ナトリウム	
	(注) HCB- ¹³ C ₆ 、アルドリン- ¹³ C ₁₂ 、 <i>cis</i> -イルドリン- ¹³ C ₁₂ 、エンドリン- ¹³ C ₁₂ 、 <i>p,p'</i> -DDT- ¹³ C ₁₂ 、 <i>p,p'</i> -DDE- ¹³ C ₁₂ 、 <i>p,p'</i> -DDD- ¹³ C ₁₂ 、 <i>o,p'</i> -DDT- ¹³ C ₁₂ 、 <i>o,p'</i> -DDE- ¹³ C ₁₂ 、 <i>o,p'</i> -DDD- ¹³ C ₁₂ 、 <i>trans</i> -クロルデン- ¹³ C ₁₀ 、オキシクロルデン- ¹³ C ₁₀ 、 <i>cis</i> -ノナクロル- ¹³ C ₁₀ 、 <i>trans</i> -ノナクロル- ¹³ C ₁₀ 、 <i>ヘ</i> ⁹ タクロル- ¹³ C ₁₀ 、 <i>cis</i> - <i>ヘ</i> ⁹ タクロルエボキシド- ¹³ C ₁₀ 、マイレックス- ¹³ C ₁₀ 、 α -HCH- ¹³ C ₆ 、 β -HCH- ¹³ C ₆ 、 γ -HCH- ¹³ C ₆ 及び δ -HCH- ¹³ C ₆ 各2ng	分析機関報告

調査対象物質名	分析法フローチャート	備考
[2]HCB	<p>【大気】</p>	分析原理 : GC/HRMS 検出下限値 :
[3]アルドリン		【大気】 (pg/m³) [2] 0.08
[4]ディルドリン		[3] 0.02
[5]エンドリン		[4] 0.09
[6]DDT類		[5] 0.04
[6-1] <i>p,p'</i> -DDT		[6] 0.09
[6-2] <i>p,p'</i> -DDE		[6-1] 0.03
[6-3] <i>p,p'</i> -DDD		[6-2] 0.02
[6-4] <i>o,p'</i> -DDT		[6-3] 0.009
[6-5] <i>o,p'</i> -DDE		[6-4] 0.01
[6-6] <i>o,p'</i> -DDD		[6-5] 0.009
[7]クロルデン類		[6-6] 0.01
[7-1] <i>cis</i> - クロルデン		[7] 0.16
[7-2] <i>trans</i> - クロルデン		[7-1] 0.05
[7-3]オキシクロルデン		[7-2] 0.06
[7-4] <i>cis</i> - ノナクロル		[7-3] 0.01
[7-5] <i>trans</i> - ノナクロル		[7-4] 0.01
[8]ヘプタクロル類		[7-5] 0.03
[8-1]ヘプタクロル		[8] 0.09
[8-2] <i>cis</i> -ヘプタクロル エポキシド		[8-1] 0.02
[8-3] <i>trans</i> -ヘプタクロル エポキシド		[8-2] 0.008
[9]トキサフェン類		[8-3] 0.06
[9-1]Parlar-26		[9-1] 0.08
[9-2]Parlar-50		[9-2] 0.09
[9-3]Parlar-62		[9-3] 0.6
[11]HCH類		[10] 0.01
[11-1] α - HCH		[11-1] 0.04
[11-2] β -HCH		[11-2] 0.01
[11-3] γ -HCH		[11-3] 0.03
[11-4] δ -HCH		[11-4] 0.02
	<p>一部分取</p> <p>カラムクリーンアップ</p> <p>5mL</p> <p>フロリジル10g</p> <p>妨害物質除去 : クロロメタン/ヘキサン(20:80) 50mL</p> <p>溶出 第1画分 : ジクロロメタン/ヘキサン(20:80) 80mL</p> <p>第2画分 : ジクロロメタン100mL</p>	分析条件 :
	<p>第1画分</p> <p>一部の試料について、生物で記載した※の工程を実施。</p> <p>HCB、アルドリン、DDT類、クロルデン類、ヘプタクロル、<i>trans</i>-ヘプタクロルエポキシド、トキサフェン類、マイレックス、HCH類</p> <p>濃縮 ロータリーエバボレータ 窒素バージ 50μLまで</p> <p>GC/HRMS</p> <p>シリジングスパイク添加 PCB#15の¹³C₁₂-体 500pg</p>	[9] 機器 GC : GC TRACE 2000 Ultra MS : Polaris Q カラム BPX-35 30m×0.25mm、0.25μm
	<p>第2画分</p> <p>一部の試料について、生物で記載した※の工程を実施。</p> <p>ディルドリン、エンドリン、<i>cis</i>-ヘプタクロルエポキシド</p> <p>濃縮 ロータリーエバボレータ 窒素バージ 50μLまで</p> <p>GC/HRMS</p> <p>シリジングスパイク添加 PCB#15の¹³C₁₂-体 500pg</p>	[9]以外 機器 GC : HP6890GC MS : AutoSpec Ultima 分解能 : 10,000 カラム ENV-8MS 30m×0.25mm、0.25μm
	(注) サンプリングスパイクとして添加する物質及び量は生物においてクリーンアップスパイクとして添加する物質及び量と同じ。	分析機関報告